

編集委員会便り

平成7年3月号の本誌は通巻90号です。いよいよ100号に近くなりました。本誌には、論説1件、展望・解説を2件、特集記事として6件、シリーズ特集1件、研究論文3件、技術報告1件、その他書評、グループ紹介、技術、行政情報、談話室などを盛り込み編集されております。内容は極めて豊富であり、会員には大いに満足して頂けるのではないかと自負している所です。毎号100頁程度の会誌を会員に届けておりますが、記念号などは例外で増頁となっております。又、内容については、創刊号以来毎号一貫しており、目玉となる特集記事が6～7編掲載されております。さらに、年に数回、編集委員長より当学会役員や各種委員にアンケートを送付し、本誌の内容に対する感想やコメントを頂くと同時に、特集のテーマや各種記事の執筆候補者の推薦を頂き、本誌編集上の参考に供しております。

さて、本号の特集テーマは「水熱反応による有機廃棄物の資源化処理」になりました。これは元々、東北大学工学部長の阿部博之先生（本会理事）からアンケートにより推薦された数編の論文が、いずれも水熱反応を利用した廃棄物処理に関する事からスタートしました。委員会では推薦された論文にさらに関係する論文を加えて特集になるか如何について議論があり、その後当方が世話人となり阿部先生及び榎本先生（東北大学資源工学科教授）との相談を経て、本号の特集案は榎本先生の御提示によるものです。ここに両先生に厚く御礼申し述べる次第です。

水熱反応と言えば、資源工学と密接に関係する冶金学の分野では古くから利用されており、例えば亜鉛鉱やニッケル鉱などの鉱石より酸やアルカリの高温水溶液を用いて有用成分を抽出（浸出）したり、あるいは抽出・分離し易い化合物に変える予備処理として用いられている。さらに人工鉱物の製造では「熱水法」と言われ高温高圧の水溶液から水晶、エメラルド、マンガ化合物などを晶出させる方法として用いられている。この事からも水熱反応は材料開発や廃棄物処理への利用の可能性が大きいと考えられる。本特集は水熱反応が特に有機廃棄物の処理に利用されている現状あるいは研究開発の現状と展望を把握する上で大変意義あるものと考えております。

話は変わり、当方の担当しているシリーズ特集「明日を支える資源」については、今回は「フィリピンの最近の鉱業事情」を掲載しました。このシリーズ特集は各巻の1号には掲載しておりません。したがって、今回の記事で通算の掲載番号54と言う事は11年にわたるロングランとなった事になります。この点、大変感慨無量です。「ドコで打ち切りか？」一寸返答に困りますが、未だこのシリーズで取上げていない物質資源や外国の資源状況もあり未だ当分は継続可能です。それよりも次のシリーズ特集のテーマについて名案があれば、お寄せ頂ければ幸いです。

若松 貴英

（京都大学工学部資源工学教室教授）